

事業の背景・目的

クワガタムシ科の一群であるマルバネクワガタ類は、日本では琉球列島に分布する。原生的な森林に生息する大型種は3種2亜種計5タクサであるが、そのうち1種2亜種（計3タクサ）は国内希少野生動植物種に指定されている。これは、過去における森林伐採や過剰な採集圧により、絶滅の危機に瀕していることが明らかとなったためである。

このため、国内希少野生動植物種指定の3タクサを生息域外保全の目的で、またその比較のため残りの2タクサ、計5タクサについて、伊丹市昆虫館において飼育下繁殖技術の確立を試みるとともに科学的知見を集積する。



事業の概要

・ 生息域外保全事業

目的：国産マルバネクワガタ大型種5タクサのについて、飼育（生息域外保全）個体群を維持することにより種（系統）の保存を行った。



成果

順調に累代飼育継続中、種の保存に貢献

ウケジママルバネクワガタ、ヨナグニマルバネクワガタ、ヤエヤママルバネクワガタの2齢幼虫時の、異なる温度区における発育日数を計測。発育零点を算出した。

幼虫の発育に不適な温度（16℃以下、28℃以上）が判明した。

採卵に用いるための褐色腐朽材の、人工的な作製を試行中。

・ ファウンダー確保事業

目的：生息地における生息状況調査
飼育下繁殖を行うためのファウンダーの確保



成果

奄美群島、沖縄諸島、八重山諸島の国産マルバネクワガタ大型種が分布する、計8島にて生息状況調査を行った

奄美大島で32個体、請島で9個体、加計呂麻島で9個体、徳之島で26個体、沖縄島で12個体、石垣島で7個体、与那国島で3個体の生体を確認。特に徳之島では新規の生息地点を確認できた。

オキナワマルバネクワガタ沖縄島個体群のファウンダーを採取、24卵を得た。

久米島では個体はおろか生息を示す痕跡も見つからなかった。